

平成 28 年 8 月 25 日

於キワニスクラブ

旅の方法論

コミュニティ・アカデミー上幟
代表 香川 正弘

はじめに どうして 55 歳から、旅をするようになったのか

1. 問題意識

(1) 仕事上で感じていたこと

- ・日本人でありながら、日本文化についてよく知らないという問題
日本人の生み出した「人は生涯にわたって学ぶべきである」ということを書いたテキストになる古典(資料1)、またそれを表す章句が挙げられない(資料2)。
- ・生涯学習の学習素材はその土地の郷土文化にあるが、教材となるものを知らない
地域文化を知らずして、大人の生涯学習を講義することは大きな罪だと思う(資料3)

(2) 私にとっての根源的な問題意識

- ・どうして日本の地域社会は、それぞれ独特な文化と住民の気質を持っているのか
- ・郷土意識というのは、どのようにして形成されるのか。
- 人々に郷土意識や団体意識を弱めるには、どのような措置をとるのか。(資料4)
- ・広島人の郷土自慢は東京でも有名であるが、いったい何を根拠に誇っているのか。
- 他郷から来た広島大学の教授達からしばしば、「広島は文化果つる所」と言われた。
どうしてそういわれるのか、理由がわからない。

2. 現実対応で、イギリス研究から日本文化研究への方向転換

(1) 日本文化研究を促した要因

- ・高級官僚、同僚教授、上智大のゼミ生は日本史にめっぽう強い。官僚には「吾妻鏡」を読んでいる人が多く、同僚教授には教養として文学をたしなみ、和歌俳句を詠む人が多かった。
- ・福島で「信夫山」を「のぶお山」と言って、「文学部の教授たるものが」と笑われる。
- ・文京区のお寺さんで、実は東京の人は信心深いのです、「信濃の善光寺、江ノ島神社へ行っていないというのはいけません」と諭される。

(2) 教養主義へ転向

- ・学位論文「イギリス大学拡張成立史研究」は後年時間があれば加筆して出版できるところであった。それを中断して、日本史を再度学び直すことにした。
- ・読書三昧で、岩波文庫、講談社学術文庫、新潮文庫、論文を中心に古典と歴史小説を、生涯教育学を構築するという観点から読み直す。47-55 歳の 8 年間に単行本は 3 千冊、論文は千本ぐらい読み、教養人に変身する。55 歳頃には、「尚友」(本の中の登場人物・友達)に会いに行きたくなる。

(3) 社寺巡りから町の歴史文化探訪へ

- ・ 札所巡りの趣味は、大学院生時代からあったので、社寺巡りとして復活する。
社寺は、住民の心の拠り所、地域の歴史の保管庫、開かれた公共空間となっている。
- ・ 事前学習——今ならネットで、昔は百科事典で調べる。特にその土地の偉人を調べる。
神社は土地の人々の心の拠り所で、古代からの都と地方の関係をかたる。お寺は地方政治を反映しており、土地の人々の相談所、そして死後の世界にわたす役割を果たす。
- ・ 現地学習——ノート片手に、境内の碑文、揭示文、看板説明文は筆写する。出来るだけ生粋の地元の人（神職）や住職に直接会って、質問をしたり意見を聞き、それらはすべて記録にとる。社寺は、古代からのその土地の歴史を記憶している場所で、叩けばその歴史が開かれてくる。「旅は生きた本を読むこと」といわれる。
- ・ 事後学習——3泊4日の旅行であれば、一週間掛けて訪ねた所の資料や文献を読み、資料整理をしていく。またソフトはアクセスを使用し、どのような形でもたちどころに引き出せるように整理する。また疑問な点はメールや手紙で問い合わせて正確を期す。

(4) 町の歴史探訪の経路

A 概括

- ・ 移動手段——車。出発は朝4-5時の間。連れは嫁。
- ・ 講演の時も車で行き、日時を自由に設定できる場合は、木曜-日曜までの出かけとなる。
- ・ 一泊二日で 3つの町を訪ね、20-30カ所に行く。ゆっくりした場合は一日12カ所ぐらいを訪ねる。宿は3500-7000円の安宿。

B 日常での訪問

- ・ 首都圏は日常的に訪ねる、
- ・ 一泊二日（二泊三日）は 山梨、千葉、茨城、栃木、群馬、福島あたりまで。

C 長期旅行（5-7+ α 日間）

春休みは関東中部地方、5月のゴールデンウィークは東北、甲信越

夏休み・冬休みは、東京-広島で、北陸道、東海道、阪名道路、四国、西日本全体講演の機会を利用して、地元文化がわからないといけないといって、前日着、一泊プラスして見て回る。

3. 町の歴史探訪の発展段階

(1) 第一段階 基本（資料5）

- 1) 主に城下町を訪ね、国宝・城址・神社・寺院を訪ねる。

城址、国宝のある博物館、

旧国の一の宮、二の宮、三の宮、式内社、総社、総鎮守、崇敬神社、東照宮、

護国神社、藩主の神霊を祀った神社、

大名菩提寺、家老菩提寺、サムライ寺、由緒寺院、安国寺、著名人の墓所のある寺

- 2) 物語に関係した神社、寺院

「平家物語」、「源平盛衰記」、「太平記」、「今昔物語」、「万葉集」、「古事記」

(2) 第二段階 追加

- 3) 「奥の細道」 をたどる

4) 資料館・郷土博物館を訪ねる。

5) 役場の観光課を訪ねる

観光資料をもらう、どこを訪ねたらいいかを教えてもらう

県民の歌、市民憲章、市歌、代表的な地元の民謡・口説きをもらう (資料6)

6) 図書館を訪ねる

社寺巡りは5時までであるので、それ以降は町の公共図書館へ行って郷土資料を閲覧。調べる内容は、テーマがある場合は、町村史の該当部分を調べる。

(3) 第三段階 追加

7) 町の名前を冠した小学校、旧制中学の伝統校を訪ねる

明治6年に出来た小学校、旧制一中、藩校に関することを調べる。

校歌、校訓、校章の由来、伝統行事、生徒文化、応援歌、記念歌、愛唱歌

(4) 第四段階 テーマを決めて地方を訪ねる

8) 離島を訪ねる

佐渡島、瀬戸内海の島々、壱岐・対馬、五島列島、伊豆七島

9) 古戦場巡りを加える。

- ・陣地配置、戦闘経過、敗れた側の行く先、英雄・供養の社寺、武勇談・物語・歌舞伎・唱歌・口説きなど、日本文化の花となる、小説家も軍人も現地視察を重視
- ・印象に残っている戦場

^{こいし}丁未の乱 (587)、壬申の乱 (672)、／平将門の乱 (935)、藤原純友の乱 (939)、
／前九年の役 (1051)、後三年の役 (1083)、／富士川の戦い (1180)、俱利伽羅
峠の戦い・水島の戦い (1183)、宇治川の戦い (1184)、屋島の戦い (1184)、藤
戸の戦い (1184)、壇ノ浦の戦い (1185)／元寇文永小茂田浜の戦い、博多赤坂・鳥飼
の戦い (1274)、元寇弘安志賀島の戦い・鷹島掃蕩戦 (1281)／千早城の戦い (1333)、
湊川の戦い (1336)、藤島の戦い (1338)、四条畷の戦い (1346)、／結城合戦 (1440)
／応仁の乱 (1467-1477)／有田中井手の戦い (1517)、吉田郡山城の戦い (1540
-41)、佐藤銀山城の戦い (1541)、月山富田城の戦い (1542)、川中島の戦い 1
回目 (1553-64)、折敷畑の戦い (1554)、巖島の戦い (1555)／桶狭間の戦い (1560)、
石山合戦 (1570-80)、長島の戦い (1570-74)、長篠の戦い (1575)、天目山の
戦い・高松城の水攻め (1582)、小牧長久手の戦い (1584)、小田原城の戦い (1590)、
九戸城の戦い (1591)、／関ヶ原の戦い (1600)、大坂冬の陣・夏の陣 (1614-15)
島原原城の戦い (1637)／太田絵堂の戦い (1865)、長州征伐芸州口・小倉・大島
・浜田の戦い (1866)、戊辰戦争会津戦争 (1868)／西南戦争田原坂の戦い (1871)

10) テーマをもつ旅 [コミュニティ・アカデミー上幟。講座「旅で学ぶ日本人の心」平成28年春期講座で取り上げたテーマが○印]

○キリシタン迫害時代——長崎・島原半島・平戸島・生月島・五島列島

○伊豆七島の流人生活——神津島—式島—新島—伊豆大島

○瀬戸内航路——開削前の日本海沿岸航路、開削後地乗り航路、沖乗り航路、

○元寇の役 ——文永の役・弘安の役

文永の役 対馬の小茂田浜上陸、壱岐の西側に上陸、博多に上陸、云々

- 弘安の役 対馬の東側佐賀上陸、壱岐の勝本に上陸、志賀島に上陸 云々
- ・薩摩の武家屋敷 —— 出水、川内、伊集院、入来、(知覧、加治木、国分)
- ・海軍の町 呉と横須賀の比較 —— 横須賀の歴史文化調べ
- ・原爆都市の比較 広島と長崎 —— 長崎の調べ

資料1 日本人の生涯学習について書いたテキスト

世阿弥『風姿花伝』と、佐藤一斉『言志四録』を挙げることにしている。

資料2 章句としては次の言葉が、日本人の生み出した生涯学習の言葉ということにしている。

1. 二宮尊徳「報徳訓」

父母の根元は天地の令命にあり、身体の根元は父母の生育にあり、
 子孫の相続は夫婦の丹精にあり、父母の富貴は祖先の勤功にあり
 我が身の富貴は父母の積善にあり、子孫の富貴は自己の勤労にあり
 身命の長養は衣食住の三つにあり、衣食住の三つは田畑山林にあり
 田畑山林は人民の勤耕にあり、今年の衣食は去年の産業にあり
 来年の衣食は今年の艱難にあり、年々歳々報徳を忘るべからず

2. 佐藤一斉「三学戒」

少(わか)くして学べば、則ち壮にして為すこと有り。
 壮にして学べば、則ち老いて衰えず。
 老いて学べば、則ち死して朽ちず

資料3 学者は神の敵——マルチン・ルターによる、エレミア書第9章の解説

出典：石原謙・吉村善夫訳『摩利やの讃歌 他一篇』岩波文庫、原著1521年、
 1993年、116-117ペ [他一篇は「死の準備についての説教」1519年]

エレミア書第9章

「知恵ある者はその知恵に誇る勿れ、権勢ある者はその権勢に誇る勿れ、富める者はその富に誇る勿れ。誇らんとする者は、我を認め、私の神にして地に憐れみと審きと義とを行ふ者なるを識る事をもて誇るべし。これよくわが意に適ふなりと神言ひ給ふ」、91-92ペ)

アウグスティヌス派修道士 博士マルティヌス・ルター訳解

「これは此世で最も有毒、有害な人々である。……ヨハネ(ルカ伝第3章)は彼等を蛇の子と呼んでゐる。キリストも亦さう呼び給ふ。斯かる者共こそ真に罪ある者共である。彼等は神を畏れないのであるから。……それ故に彼等は此側の神の三つ敵の中、第一に位する者でなければならない。何故なら富者は最も小なる敵であり、権力ある者はそれよりも遙かに多くの事を為すが、斯かる学者は最も奸悪である。即ち彼等は他の人々を誘惑するのである。富者は自分自身の中から真理を根絶し、権力ある人は之を他人の中から掃蕩するが、学者は真理自体を完全に抹殺して、その代わりに彼等の心から出た我見を持ち出して、真理が再び顕はれ出でる事の出来ないやうにする。それ故、真理自体

が之を宿す人々よりも遙かに優れてゐると同じだけ、学者は権力ある者や富者よりも一層奸悪である。おお、神は特に彼等に敵対し給ふ。これ寔に当然である。」(116-117 ぺ)

資料4 郷土意識や団体意識を弱めるには

- ・郷土の歴史と文化、そして郷土が排出した偉人を教えないことである。過去を出来るだけみず、未来を開いていくことだけを強調する。
- ・町や地方の伝統ある高等学校を訪ねることにしている。教員のうちにどれだけ自校出身者がいるかを聞くことにしている。伝統校を平凡な学校にするには、その学校の出身者を教員にしないことである。伝統を継承させたい学校は、校長・教頭も自校出身者であり、教員の3分の1は同窓で固めている。

○「袋町小学校校歌」波多野文治作詞・作曲不詳

1) 鯉城の 空に 高光る ふくろまち いらかいかめし 袋町

その 帽影の 燦として まさきく 生うや 広島児

~~2) 秀れいの気の凝るところ 見よや精励頼山陽~~

~~また見よ 質実加藤公 吾先人に遅れめや 現在削除~~

3) あした 二葉に 精を 吸い タベ 三篠に 気を 吐いて

国の 花とぞ 生い 出ん ああ 勇ましの 広島児

○郷土意識を強める「山口県立豊浦高校校歌」、高野辰之作詞

一 乃木将軍の 生れしところ 狩野芳崖 生れしところ

剣に筆に 偉人をいだす 霊気こもる地 これ我が豊浦

○郷土意識を強める「秋田県立秋田高校校歌」、土井晚翠作詞

三、篤胤信淵 ふたつの巨霊 生まれし秋田の 土こそ薫れ

先蹤追ひつゝ 未来の望 ゆたかに健児は 其途進む

資料5 町の歴史探訪 訪ねるべき所を広島県を中心に、山口県、岡山県で示す

A.城址——広島城、亀居城址(大竹)、三原城址、福山城、郡山城跡、小倉城跡、日熊山城(三次)、

B. 神社

一ノ宮——安芸国 巖島神社(一ノ宮)、速谷神社(二ノ宮)、多家神社(三ノ宮)

備後の一ノ宮 吉備津神社(福山市新市町)、備中一ノ宮 吉備津神社(国宝、

岡山市)、備前一ノ宮 吉備津彦神社(岡山市北区)、美作国一ノ宮 中山神

社(津山市)、周防国一ノ宮 玉祖神社(防府市)、長門国一ノ宮 住吉神社

(国宝、下関)

巖島神社兼帯七社

速谷神社(廿日市)、大頭神社(大野)、大瀧神社(大竹)、総社(多家神社、府中)

角振(三翁神社、府中)、官弊社(安芸津彦神社(安佐南区祇園)、宮内天王社

C 藩主を祀った神社と菩提寺

広島県

饒津神社(浅野長政、幸長、長晟、長勲、広島)—— 国泰寺(浅野家)、[国前寺]

神社不詳 ———鳳源寺（三次浅野家）
 新羅神社（武田家祖先新羅三郎、広島）——不動院（国宝）、立専寺（武田家祇園）
 神社不詳 ———岩松院（福島政則、長野県小布施）
 神社不詳 ———洞雲寺（毛利元清、廿日市）
 福山八幡宮末社聴敏神社（水野勝成公、福山開祖）、福山では不詳
 聴敏神社（結城市）——孝顕寺（水野家菩提寺、結城市）
 備後護国神社（阿部家、福山市）——賢忠寺（阿部家、福山市）
 和賀神社（小早川隆景、竹原市）——米山寺〔宗光寺〕（小早川家、三原）

岡山県

岡山神社（池田光政、岡山市北区）——曹源寺（池田家、岡山市中区）
 神社不詳 ——本源寺（津山藩主森家、津山市）
 神社不詳 ——泰安寺（津山藩主松平家、津山市）

山口県

志都岐山神社（毛利元就・隆元・輝元・政親・元親、萩市）——東光寺・大照院（毛利家、萩市）
 豊栄神社（毛利元就、山口市）——洞春寺（毛利元就、山口市）
 野田神社（毛利敬親、山口市）——東光寺・大照院（毛利家、萩市）
 宣徳社（毛利歴代祖公、山口市）——東光寺・大照院（毛利家、萩市）
 吉香神社（吉川家、岩国市）——洞泉寺（吉川家、岩国市）
 祐綏神社（藩初代毛利就隆と九代藩主毛利元蕃、徳山市）——大成寺（徳山藩毛利家）
 宇部護国神社（福原越後公）——宗隣寺（福原越後公）
 豊功神社（長府藩主毛利家歴代藩主、下関）——覚苑寺（長府毛利家、下関）

資料6 盆踊り口説き

1. 廿日市市役所調べ

「盆踊り歌」「松づくし」「大黒さん」「巡礼おつる」「朝顔日記」「安珍清姫」
 「石井常右衛門」「梅川忠兵衛」「お梅くどき」「おせきくどき」「お艶くどき」
 「お初徳兵衛」「お半長右衛門」「笠松峠」「国姓爺和藤内」「こしな半兵衛」
 「佐倉宗五郎」「島原小蝶」「俊徳丸」「巡礼物語」「助六」「瀬田の唐橋」
 「御手洗川心中」「御堂万歳」

3. 府中町

口説き「一の谷嫩軍記」、口説き「関取千両幟」、民謡「きやり歌（広島八景）」

4. 安芸津町

口説き「安芸津観光風景」「盆踊りの由来」「鈴木主水」「帰村節」「石堂丸」

6. 上下歴史文化資料館

＜郷土の口説——広島県甲奴郡上下町字小塚＞「平さとおじゅん」「十二の灯明」「ひろたにおよし」「おくまくどき」「日高川」「小塚ふる里音頭」「昔から伝わる小塚盆踊り口説」「豆口説」

7. 常磐神社（三原市）

「鈴木主水くどき」「平井権八、小紫くどき」「佐倉宗吾くどき」「八百屋お七、小姓くどき」「阿波の鳴門巡礼くどき」「石堂丸くどき」「入れ節（一）（二）」「盆

踊りく とき（仏踊り）」「伊勢音頭」

8. 世羅町公民館

口説「石堂丸」「寺町踊り」「青柳踊り」「大田踊り」「備後の踊り」／「囃子」「口説き前口上」（三拍子・十拍子）「傘渡し」「猿丸太夫さん（扇子踊り）」「増屋のおれん」「おりよ心中」「おんな口説き」「山口説き」「豆口説き」

9. 三原市佐木島

「道行 八百屋お七」、佐木島の口説き「口説 お塩亀松」「下手九州は いそはい村よ 村が千軒……」「淡で海賊 かの十郎兵衛……」「三太口説き」「鈴木主水」／ 大崎下島役所提供「紫雲丸遭難の口説き」

10. 蒲刈島

下蒲刈島巡り、見戸代よろずや社、大地蔵の血染の地蔵、城の観音堂
一之字土堤の祠、盆踊由来、舵子物語、見戸代下島今昔道草語り、蒲刈の葉付みかん地蔵の今昔道草語り、下島の薬師堂、〇〇づくし、白地木綿紺屋、番町皿屋敷のお菊怪談、石堂丸と苺萱道心、八百屋お七、国定忠治、佐倉宗吾郎、小玄くどき、鈴木主水、かつら川お半長右衛門
いろはくどき、浦里時次郎、平井権八小紫物語

4. 広島地区

「宮島八景」（広島湾岸）、「広島百景」（府中）、「百万一心」（吉田）、「保木城の嵐」（坂町）、「棲真寺縁起くどき」・「棲真寺滝心中嘶」（三原）、「西国お船じるし」、「武一騒動」、「小早川隆景」、「紫雲丸遭難の口説き」（大崎下島）、

5. 補足

- ・「百万一心」 吉田郡山城改築の時、毛利元就が人柱の代わりに石柱を埋めさせる
「百万一心とは、百の字は「ノ」の一面を除き「一日」と読み、万の字は「一」と「力」に別ける。これで「一日一力一心」と読み、日を同じにし、力を同じにし、心を同じにする、という一致団結の大切さを教えたものとされている。」
- ・静岡県藤枝市の旧東海道「小夜の中山夜泣き石」の口説き
広島市佐伯区五日市に木遣り歌で残っている。
- ・口説き「原爆の母」
ハワイの盆踊りで踊られている。

セミナー (○は交渉中)

1. 健康セミナー (座長 金子和子) 2ヶ月に1回

○① 「豆類の調理と栄養」、野村知未 (広島女学院大講師、博士 (学術))

○② 「卵の調理と栄養」、野村知未 (同上)

2. 「広島文化懇談会」 (座長 田辺良平) 月の第3水曜日 18:30-20:00、

■ 9/14 「西国街道の今昔物語」 佐々木拓也 (間学苑:時空人論研究所)

■①10/19 「広島歴史散歩入門」 本田 美和子 (広島市郷土資料館 学芸員)

3. 「広島歴史と文化セミナー」 (座長 香川正弘)

月の第1水曜日 18:30-20:00

■ 9月7日 「厳島神社の造営はだれか」 木本 泉 (郷土史家)

■①10月5日 「残留孤児の見た日本」 赤崎 大 (満州からの引き揚げ者)

■②11月2日 「広島地方の妙好人」 佐々木浄珠 (西芳寺住職)

■③12月7日 「広島からのアメリカ移民」 山代宏道 (広島大名誉教授)

講座

■ 4-1 「広島医学」 原田康男 (元広島大学学長、医学博士)

木曜日、午後 15:00-16:30

① 11/17、②11/24、③12/01、④12/08、⑤12/15、⑥12 /22、⑦1/12、⑧
1/19、⑨1/26

○ 4-2. 「ウォーキングの健康科学」 6回講義 渡部和彦 (広島大学名誉教授)

■ 4-3. 「フランス中世の文学 (その2)」、原野 昇 (広島大学名誉教授)

水曜日 13:30-15:00 ①10/19、②11/2、③11/16、④12/7、⑤1
/18、⑥2/ 1

■ 4-4. 「アメリカの歴史と文化 入門講座」、今石正人 (広島修道大学教授)

水曜日 10:00-12:00 (休憩 10分、質疑 30分)

①10/5、②10/12、③10/19、④11/2、⑤11/9、⑥11/16 (予備日 10/26、11
/30)

■ 4-6. 「頼家の人々」、頼 祺一 (広島大学名誉教授)

水曜日 昼 13:30-15:00、①10/5、②10/12、③10/26、④11/9、⑤11/30、

⑥12/14、(予備日 1/11、1/25)

問い合わせ先

プログラムは追って「コミュニティ・アカデミー上臈」のホームページに載せます。

・ 〒 730-0014 広島市中区上臈町 10-15-201 畠田ビル 2F ・ ・ 082-225-8103 /

ホームページ c.a.kaminobori@outlook.jp